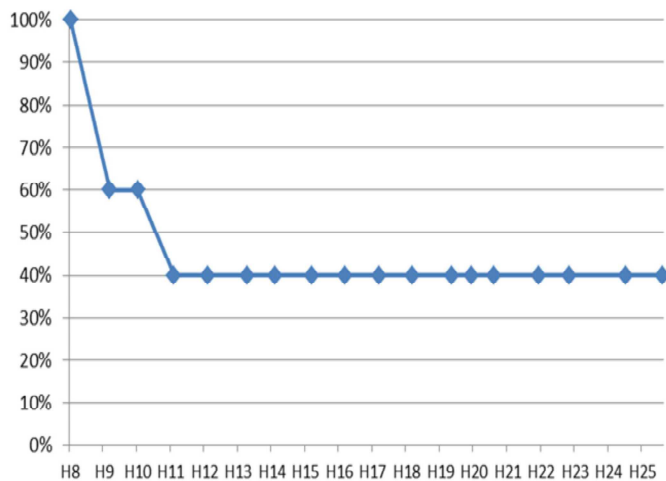


樹種名	ケンボナシ	
科 目	クロウメモドキ科	
学 名	<i>Hovenia dulcis</i>	
分 布	北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国に分布する。	
樹木特性	半陰樹であり伐採すると切り株から萌芽する。また、果実を付ける柄（果柄）が不規則・勝手気ままに屈曲したように見えてむっちりと肉を付け、これが甘くて食べられる点である。	
用 途	洋家具、家具指物（火鉢、文房具、机案等）、洋風建築及指物彫刻、木象嵌、三味線胴に利用。最高位に位置するクワの代替材として利用。 実・葉や幹は煎じて薬として利用されている。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	2 本 / 0.0007ha (3,000 本 / ha)	
特 徴	【樹 形】 落葉高木で樹高は 15 ～ 20m になる。 樹皮は暗灰色～灰褐色で若いうちは滑らかだが、大木になると縦に浅く裂け薄く剥がれる。このような剥がれ方をする樹皮は他には少ないのが独特で、縦に裂けるだけで、剥がれない木もある。葉は互生し、左右に 2 回づつ葉の着くコクサギ型葉序になることが多い。葉身は広卵形で質はやや薄い。縁には低い鋸歯があるが、大きく波うつ場合もある。基部から分岐する 3 主脈が目立つ。6～7 月に枝先から集散花序を出し、淡緑色の小さな花を多数開き果実は球形の核果だが、果肉はほとんど無い。代わりに果柄が太く折れ曲がって肉質になり、食べられる。果実は核果だが、果肉が無いので種子は大きく固い。	  
試験地での様子	ポット苗により植栽し、2 本が現存している。	
被 害	特になし	

ケンポナシ 現存率



【現存率】

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、2 本が現存している。

【胸高直径】

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、2 本の平均胸高直径は、7.16 cm であり、順調に成長している。

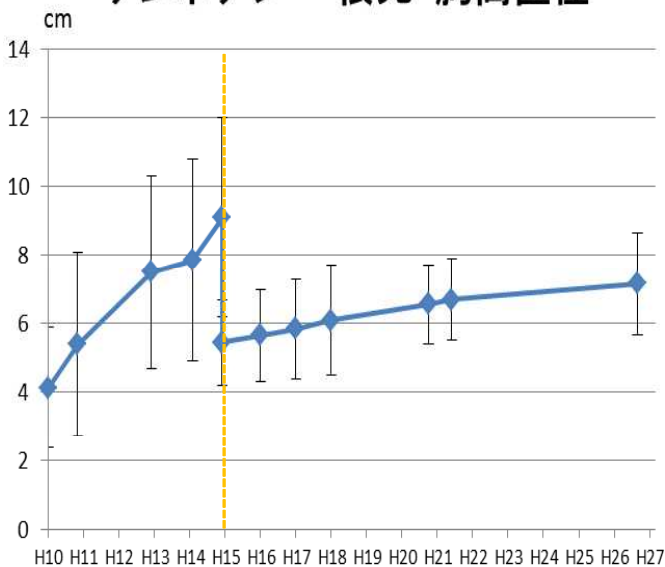
※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

【樹 高】

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、2 本の平均樹高は、7.15m であり、順調に成長している。



ケンポナシ 根元・胸高直径



《プチ情報》

1 由来

ケンポナシは漢字表記では「玄圃梨」とあり、昔の日本ではテンポノナシと呼び、肥前ではケンボコナシと呼んでいたが、シーボルトは、計無保乃梨（ケンボノナシ）、別名を漢名「シグ」とした。さらに転訛して、ケンポナシとなったのが由来である。

2 薬としての効能

昔からケンポナシの実を沸かして茶にして飲むと、以下の効能があるといわれている。

- ① 酒による二日酔いの解消に名薬として紹介されている。アルコール中毒者の治療にも効果的であり、ケンポナシ茶を飲むと体内に残っているアルコールを迅速に分解し、肝機能を改善する卓越な効果を発揮する。
- ② さらに、肝細胞が損傷を受け機能に障害が発生すると黄疸が表われるが、肝機能を改善し体内に蓄積された毒素を除去する。
- ③ 血液改善に効果があり手足のしびれの改善、動脈硬化の予防や治療にも効果がある。
- ④ 小便をする際不便さや残尿感がある方がケンポナシ茶を飲むと気持ちよく小便ができるようになります。また、腸を刺激して大便を円滑にし宿便を除去し便秘にも良い。
- ⑤ ケンポナシの実をお湯で沸かしお茶にしてずっと飲むと筋肉を癒し、経絡（ツボをつなぐ）機能を活発化させ疲労回復を早める効果があり、慢性退行性関節炎と固まった筋肉をほぐしてくれる。

3 抽出成分の利用商品

ガムなどの原料にも利用されている。

ケンポナシ 樹高

